

ランセット 378 号 2011 年 11 月 12 日掲載（日本リザルツ仮訳）

Winstone Mwenda Zulu 氏の追悼文

ザンビアの AIDS・結核活動家。1964 年 1 月 7 日ザンビア・ルサカ生まれ。2011 年 10 月 12 日 HIV 感染による合併症のためルサカにて逝去。47 歳。

今年 7 月に Pulitzer Center on Crisis Reporting の記者が行った取材は Winstone Zulu 氏が死の直前に受けた取材の一つである。彼は重篤な HIV 腸症に侵され、頭を枕に支えられて弱々しく横たわりながらも、彼独特の情熱を込めて、残された使命について彼女に語った。一つはザンビアのホモフォビア（同性愛に対する嫌悪・偏見）問題に取り組むこと、もう一つは障害者に対する HIV 予防の啓発であった。「まだ取り上げられていない問題が山積みです」と彼は語った。

Zulu 氏は 20 年にわたってアフリカで最も良く知られた HIV 活動家の代表的人物であり、国際舞台では HIV の予防や治療および結核治療薬へのアクセス強化を目指す国際的な取り組みの必要性を訴え続け、また母国では HIV のスティグマ撲滅に向けた闘いを指導してきた。それは彼がロシアへの留学前に受診した検診で HIV 陽性と診断された 1990 年から始まった、長い闘いであった。その後すぐに、彼はザンビアで初めて自身の HIV 感染を公表した人物となった。「恥じることは全くないと私は考えたのです」と彼は後に語った。「HIV 陽性であることは犯罪者であることとは違います。隠すべきなのは犯罪者たちだけであり、私は公表すべきだと思ったのです」。

1990 年代、Zulu 氏は「ポリオで脚を引きずった、ニコニコ笑う、ユーモアのセンスと危機感を持つ若者」であったと、アフリカを拠点とする記者の Mercedes Sayagues 氏が先日書き記した。「Winstone は実にさまざまな面で人々に感銘を与えました」と、同時期に彼と初対面した WHO の HIV/AIDS 事業部の Rachel Baggaley 氏も賛同する。「彼は非常に明るく魅力的で、それまで誰もできなかった HIV 感染の公表を行った、驚くほど勇敢な人でした」。ロンドン大学公衆衛生学・熱帯医学大学院（London School of Hygiene and Tropical Medicine）の Peter Godfrey-Faussett 教授はこれに同意し、「Winstone は私がこれまでに会った中で最も勇敢な人間の一人であり、友人に対して誠実で、自分の意見をきちんと主張する人物でした」と語った。声を上げるだけでなく、Zulu 氏は HIV の治療や検診そしてカウンセリングを提供するための先駆的な取り組みの支援をも、ルサカの Kara Clinic などの団体を通して行った。彼は Positive and Living Squad (PALS) を設立し、HIV/AIDS にまつわる話が恐怖や死に関連したものばかりであった頃に、HIV に対する意識を高めることに貢献した。

Zulu 氏は論争を恐れることなく、ザンビア国内をはじめ、各地で賛否両論のある HIV 感染者が子供を持つ権利を主張した。彼と彼の妻 Vivian は、4 人の子供たち、Michael、Waza、

Mwenda、Dan をもうけた。2 人のウイルス量が低いタイミングでの受胎や、ネビラピンや粉ミルクの使用で、確実に子供たちを HIV フリーの環境にして育てた。2000 年に Zulu 氏がそれまで服用していた抗レトロウイルス薬の服用を中止すると、AIDS が HIV ではなく貧困によって発症すると主張する AIDS の否定論者たちにつかの間に促されて再び論争が巻き起こった。この間、2002 年に薬の服用を再開するまでに彼の病は深刻化した。

Zulu 氏は 13 人兄弟であった。結核の治療薬へのアクセス強化の必要性を語る際には、彼はよく自分の 4 人の兄弟そして 2 人の義姉妹たちの死について話した。「結核治療は患者に時間を与えてくれます。もし私の兄弟たちが結核を克服していたら、彼らも私のように HIV 治療薬へのアクセスを得られるようになるまで長生きしていたかもしれません。彼らが生きていてくれれば…」と彼は語った。彼の家族の悲劇が彼を世界的な活動家たらしめたのである。彼自身の健康を多々犠牲にしながらも、5 大陸の政策担当者たちとの面会を通して、生涯にわたり世界中の指導者たちに HIV/AIDS や結核と闘うことを呼びかけ続けたのである。

UNAIDS および Stop TB Partnership のスポークスパーソンであり、AIDS Free World のアドバイザーでもあった Zulu 氏は、結核アドボカシー団体の ACTION のパートナーでもあった。彼は 2007 年に日本の安倍晋三首相と面会し、世界エイズ・結核・マラリア対策基金への日本の支援取り付けに貢献した。その翌日、彼は深刻な脱水症状により東京の病院に入院してしまった。「しかし Winstone は、結核や HIV との大きな闘いへの関心を決して失いませんでした」とストップ結核パートナーシップ日本のアドボカシー・アドバイザーの小川沙良氏は語った。「彼の無私無欲の振る舞いが世界中の多くの人々の心に響いたので」。彼の死後、ザンビアの Michael Sata 大統領は Zulu 氏を「AIDS と共に生きる人々の権利と尊厳のために闘う勇敢な戦士」と記憶し、彼のリーダーシップが 400,000 人のザンビア人に無料の抗レトロウイルス薬を届けることに寄与したと語った。Sata 大統領は Zulu 氏の活動を評価する大統領憲章 (President' s Insignia of Recognition) を彼の死後に授与した。Zulu 氏は妻の Vivian と子供たちを遺して亡くなった。